国内最大級メガソーラー 岡山・瀬戸内で試運転

運営の合同会社

岡山県瀬戸内市の錦海塩田跡地に国内最大級の大規模太陽光発電所（メガソーラー）を開設する瀬戸内Ｋｉｒｅｉ未来創り合同会社（瀬戸内市）は発電所の試運転を始めた。今後は商業運転に向け、発電した直流電力を交流に変換するパワーコンディショナーの点検を進める。工事の進捗が早く、予定より半年前倒しし今秋にも商業運転に移行する予定。

パネルは当初計画より1万枚多い約90万枚で、2017年末に設置を完了。18年2月末に中国電力の設備と接続した。試運転中に発電した電力は総事業費1100億円をかけて、東京ドーム56個分にあたる265㌶にメガソーラーを設置する。

会社（ＳＰＣ）で、くにうみアセットマネジメント（東京・千代田）やＧＥエナジー・フィナンシャルサービス、東洋エンジニアリング、中電工が出資。

福山のデニム 世界で勝負

直接取引を拡大、市も後押し

上仏バルマンのバイヤーに売り込む四川の藤井専務㊨
下篠原テキスタイルは織り技術に定評がある

デニム産地、広島県福山市の中小企業の間で輸出意欲が高まっている。欧米アパレルのバイヤーが参加した商談会がきっかけだ。内需が低迷する中、新たな販路開拓に向けてサンプル生地の送付などを積極化している。自治体も支援に注力するが、海外勢からは「現状は各産地がバラバラ。オール日本で臨むべきだ」との声も聞こえる。

独自の染め技術を持つ山陽染工（福山市）のデニム生地は米ラルフローレンなどにも使われている。ただ「商社が間に入るため、どのブランドにいくらでどれくらい使われているのか全く分からない」（戸板一平取締役）。市で1月に開いた商談会に参加。薬剤で染料を抜いて複雑な柄を生み出す「段落ち抜染」を売り込んだ。着色部分が染料の厚みでゴワゴワする従来の染色法の欠点を改善し色そこで自社ブランドを強化するため直接取引に乗り出すことにした。

日本貿易振興機構（ジェトロ）広島などが福山のグラデーションもきれいに出せる独自技術だ。

仏バルマンなど欧米4社のバイヤーと、デニム業界で情報発信力の強いインフルエンサー、ティルマン・ヴレーベル氏が参加。みな関心を示し、山陽染工は全員にサンプルを送った。戸板氏は「今後は技術のポイントがひと目で分かる動画なども整えたい」と話す。

産地間の連携 課題に

洗浄工程で薬剤や温水を使わない、環境に優しい染色法を実践している坂本デニム（福山市）は13～16日に中国・上海で開く展示会にも参加する。今回は同社の生地を扱う韓国企業のパートナーとしての参加だが「海外にも積極的にエコ染色をＰＲしたい」（坂本磨耶さん）と積極的だ。

独特な織り方で生地にやイタリアは主に前者に与える篠原テキスタイル（福山市）も全社にサンプルを送った。海外勢との初の商談に臨んだ四川（同）の藤井幹雄専務は「バイヤーから様々な助言をもらった。今後に生かしたい」と話す。

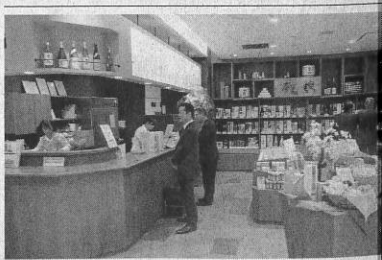
各社の意欲に自治体も呼応する。福山市は2018年度、初めて海外展示会への出展を支援する事業に取り組む。イタリア・ミラノの見本市などを念頭に、今後、計画を具体化させる。

デニム市場は今、ユニクロなどのファストファッション系とバルマンなどの高級系に二極化している。生地大国のトルコ供給しているが「高級系への供給はエアポケット状態。日本が品質を武器に売り込む好機だ」（ヴレーベル氏）という。

国内には主に生地を作る産地と生地も製品も作る産地が混在し、「倉敷デニム」「井原デニム」などと地名を冠したブランド化が進んでいる。だがヴレーベル氏は「それでは力が分散する。ジャパンデニム一本で行くべきだ」と強調する。福山市などは「備中備後ジャパンデニム」とＰＲしているが、今後、積極的に海外に打って出るには産地同士の団結力が試されることにもなりそうだ。

（福山支局長　増渕稔）

広島支局 082-244-1155
福山支局 084-932-3345



江駅構内の商業施設「シャミネ松江」をリニューアルオープンした。ファッション、カフェなど8店舗が新規出店し、従来の49店が51店に増えた。

ファッションゾーン「ファッションくらしのサポート館」では全国で店舗展開する輸入雑貨店